



投資環境

2026年7月27日

半導体産業は波を伴いながらも、力強い成長継続か

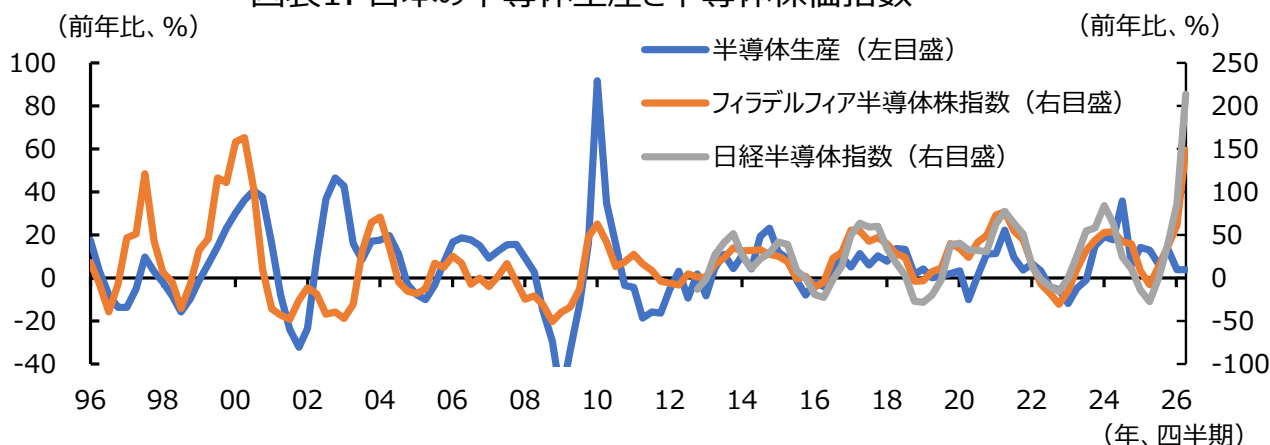
AI（人工知能）ブームを背景に、日本では半導体関連企業の生産・輸出が大きく増加し、株価も大幅に上振れていました。ただし直近では、これまで急激な上昇が続いてきた半導体関連株が調整する動きもあります。今後の半導体産業をどのように見るべきでしょうか。このレポートでは、これまでの半導体産業やテクノロジーの動向を分析し、今後の中長期的な成長性を展望します。

□ 半導体産業は好不況の波を繰り返しながらも、力強く成長

半導体産業には、「シリコンサイクル」と呼ばれる景気循環の波があります。図表 1 は、日本の半導体生産と半導体株指数（いずれも前年比）を並べてみたもので、両者は概ね連動して推移しています。半導体生産と関連株価指数は、いずれもプラスとマイナスの波を繰り返していることがわかります。これは、①半導体が不足する→②メーカーが増産に踏み切る→③やがて半導体の供給が過剰になり、在庫が急増する→④半導体が売れなくなり、メーカーが減産する→①半導体が不足する、といった流れを繰り返していることを示しています。半導体市場は、メーカー、卸売業、顧客ともに需給の見通しが立てにくく、こうした波が避けられない傾向にあります。

足元では、AI ブームを背景に半導体の不足感が強まり、株価が急速に上昇していました。ただし、図表 1 における直近の半導体生産はいまだに前年比で小幅増にとどまっています。今後、生産が拡大し、在庫の過剰感が意識されるようになると、株価も過去のサイクル通り、さらに下落する恐れもあります。

図表1. 日本の半導体生産と半導体株価指数



(注) 期間は1996年1-3月期～2026年4-6月期。日経半導体指数は2011年11月30日以降のみ公表されているため、より長期にわたって算出されているフィラデルフィア半導体指数も表示。半導体生産は「集積回路」の生産指数を用いている

(出所) 経済産業省、Bloombergよりデータを取得し、しんきん投信作成

しかし、これまでの半導体産業はこうした循環を繰り返しながら力強く成長してきました。図表 2 は、過去 30 年間の電子部品・デバイス産業（半導体メーカーを含む）の実質 GDP（国内総生産）の推移を、製造業全体と並べてみたものです。製造業全体の GDP は、この 30 年間で 1.3 倍程度の伸びであるのに対し、電子部品・デバイス産業は約 15 倍という驚異的なペースで成長しています。IT バブルの崩壊や



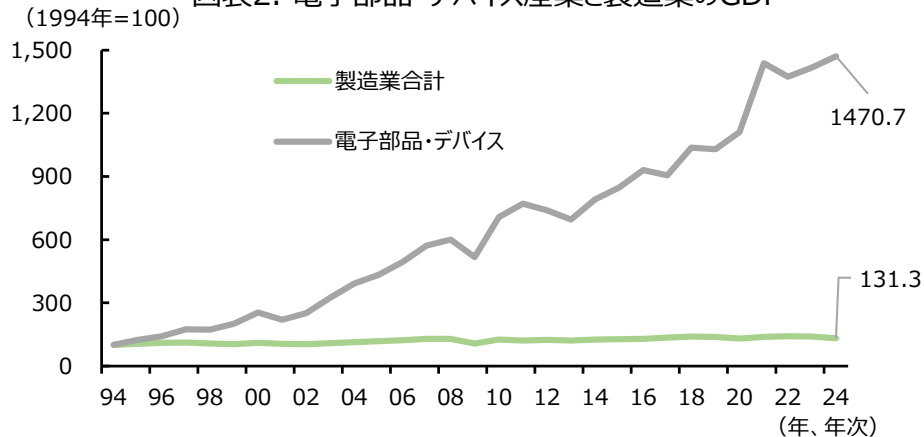
しんきんアセットマネジメント投信株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商) 第338号

Shinkin Asset Management Co., Ltd. 加入協会／一般社団法人資産運用業協会

〒104-0031東京都中央区京橋3丁目8番1号 URL : [https:// www. skam. co. jp](https://www.skam.co.jp)

リーマンショックなどの際には下落する局面もありましたが、総じてみれば力強く成長しています。今後も、半導体産業は短期的な好不況の波を伴いながら、中長期的にみれば AI 需要の拡大などを背景に成長が見込まれます。

図表2. 電子部品・デバイス産業と製造業のGDP



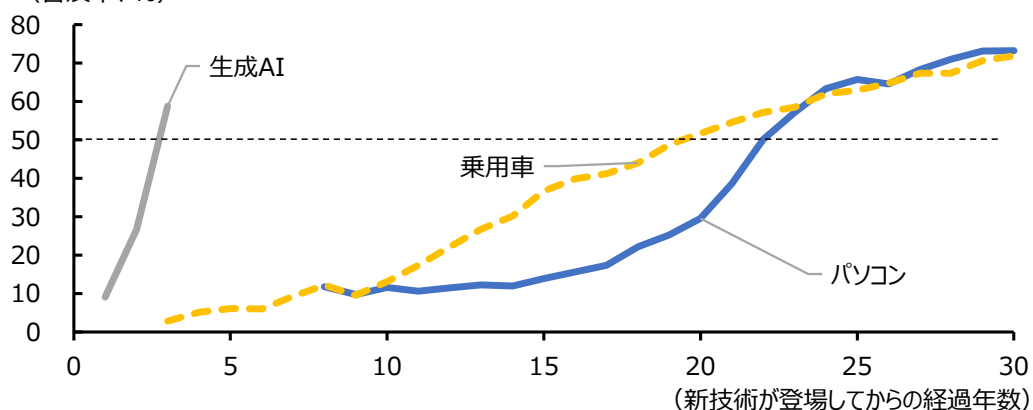
(注) 期間は1994年～2024年。

(出所) 内閣府よりデータを取得し、しんきん投信作成

□ AI は自動車やパソコンと比べ、非常に速く普及

なお、半導体市場を支える AI には、過去のテクノロジーと比べて大きく異なる部分があります。それが一般ユーザーへの普及スピードです。図表 3 は生成 AI、自動車、パソコンが一般ユーザー向けに展開されてからの普及スピードを示しています。自動車やパソコンは、人口の半数(50%)まで普及するのに 20 年程度要しています。他方で、AI は 3 年目にすでに 58.8%と、50%を超えています。過去の技術と比較して、圧倒的に速いスピードで普及しています。

(普及率、%) 図表3. 一般ユーザーへの普及スピード



(注) パソコンは、「パソコン記念日(9月28日)」の由来となった「NEC PC-8001」が発売された1979年を基準年としている。乗用車は、初期の一般家庭向け乗用車「スバル360」が発売された1958年を基準年としている。生成AIは、ChatGPTが一般公開された2022年を基準年としている

(出所) 内閣府、総務省よりデータを取得し、しんきん投信作成



しんきんアセットマネジメント投信株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商) 第338号
Shinkin Asset Management Co., Ltd. 加入協会／一般社団法人資産運用業協会
〒104-0031東京都中央区京橋3丁目8番1号 URL : [https:// www. skam. co. jp](https://www.skam.co.jp)

新しいテクノロジーを生み出した産業が大きな利益を得るためには、一般ユーザーを含めて広く社会で利用される必要があります。自動車もパソコンも、購入するのに多額の資金を用意する必要があり、運転免許やパソコンを使うスキルも必要です。しかし生成 AI は無償で利用することも可能であり、利用にあたってのスキルもあまり必要とされません。「一般ユーザーへの普及」という非常に高いハードルをすでにクリアしていることとなります。

AI の進化スピードと高い普及率を踏まえると、ユーザーの生産性上昇や付加価値向上が過去にない規模・ペースで進む展開が想定されます。その場合、各産業が AI の恩恵を享受することで経済全体としての成長率が加速し、株価も総じて伸びやすくなると考えられます。また、半導体産業についても、シリコンサイクルによる短期的な需給の不透明感が残存しながらも、AI の社会への浸透に伴って力強く成長していくことが見込まれます。中長期的に見れば、エヌビディアやキオクシアなどの半導体関連企業の収益・株価も上昇していくと考えられます。

(エコノミスト 中信達彦)



しんきんアセットマネジメント投信株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商) 第338号
Shinkin Asset Management Co., Ltd. 加入協会／一般社団法人資産運用業協会
〒104-0031東京都中央区京橋3丁目8番1号 URL : [https:// www.skam.co.jp](https://www.skam.co.jp)

＜本資料に関してご留意していただきたい事項＞

※本資料は、ご投資家の皆様に投資判断の参考となる情報の提供を目的として、しんきんアセットマネジメント投信株式会社が作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。

※本資料は、信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。また、いかなるデータも過去のものであり、将来の投資成果を保証・示唆するものではありません。

※本資料の内容は、当社の見解を示しているに過ぎず、将来の投資成果を保証・示唆するものではありません。記載内容は作成時点のものであり、予告なく変更する場合があります。

※投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の補償の対象ではありません。また、登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。

※投資信託は、値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替リスクもあります)に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、預金と異なり投資元本が保証されているものではありません。運用による損益は全て投資者の皆様に帰属します。

※特定ファンドの取得のお申込みに当たっては、販売会社より当該ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)をあらかじめ又は同時にお渡しいたしますので、必ず内容をご確認の上、ご自身でご判断ください。

【お申込みに際しての留意事項】

■投資信託に係るリスクについて

投資信託は、株式や債券等の値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替リスクもあります)に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、預金と異なり投資元本が保証されているものではありません。運用による損益は全て投資者の皆様に帰属します。

また、投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、ご投資に当たっては投資信託説明書(交付目論見書)や契約締結前交付書面をよくご覧ください。

■投資信託に係る費用について

(お客様に直接ご負担いただく費用)

- ◆ ご購入時の費用・・・購入時手数料 **上限 3.3%(税抜 3.0%)**
- ◆ ご換金時の費用・・・信託財産留保額 **上限 0.3%**

(保有期間中に間接的にご負担いただく費用)

- ◆ 運用管理費用(信託報酬)・・・純資産総額に対して、**上限年率 1.628%(税抜年率 1.48%)**
- ◆ その他の費用・・・監査費用、信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用、有価証券売買時の売買手数料等および外貨建資産の保管等に要する費用は、ファンドより実費として間接的にご負担いただきます。また、投資信託証券を組み入れる場合には、お客様が間接的に支払う費用として、当該ファンドの資産から支払われる運用管理費用、投資資産の取引費用等が発生します。これらの費用につきましては、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を示すことができません。投資信託に係る上記費用(手数料等)の合計額については、ご投資家の皆様がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

《ご注意》

上記に記載しているリスクや費用につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、しんきんアセットマネジメント投信が運用する全ての投資信託のうち、ご負担いただくそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。投資信託に係るリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なりますので、ご投資される際には、事前に投資信託説明書(交付目論見書)や契約締結前交付書面をよくお読みください。

※本資料で使用している各指数に関する著作権等の知的財産権、その他一切の権利はそれぞれの指数の開発元もしくは公表元に帰属します。